

# 独立行政法人地域医療機能推進機構

## 第5回 二本松病院地域協議会

### 議 事 録

日時：平成28年7月14日（木）19時15分～20時30分

場所：病院会議室

出席者：遠藤 幸男（福島県県北保健福祉事務所所長）

三浦 一弘（二本松市市民部部長）

佐藤 正弘（二本松市福祉部部長）

菊地 昇（安達地方広域行政組合消防本部警防課長）

安齋 英雄（二本松市社会福祉協議会副会長）

土川 研也（安達医師会会長・二本松病院地域協議会委員長）

藤田 俊徳（二本松薬剤師会会長）

吉野 正昭（二本松市岳下区長会副会長）

六角院長・柳沼副院長・大類事務長・佐藤総看護師長・安齋薬剤科長・

佐野副総看護師長・村田事務長補佐・安部係長・後藤係長（書記）

#### 議事内容（大類事務長進行）

##### ・協議会次第にそって

#### 1. 開会

#### 2. 院長挨拶

本日は、お忙しいところ第5回の二本松病院地域協議会にご出席頂き、誠にありがとうございます。

平成26年4月に、地域医療機能推進機構二本松病院（JCHO 二本松病院）としてスタートして2年が経過いたしました。この間、病院をはじめ健康管理センター、附属介護老人保健施設、訪問看護ステーションともに無事に運営してまいりました。

これもひとえに、地域の皆様方のご支援・ご協力の賜物と、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

団塊の世代がすべて75歳以上となる2025年に向け、保健医療計画に、地域における将来の医療提供体制に関する構想として、「地域医療構想」が盛り込まれました。

区域による病床の必要量、病床機能の分化等について議論が続けられております。

高齢社会では人々は複数の疾患を抱え、身体機能は低下し、認知症も増加するなど地域住民のニーズは多様化していくため医療・介護・福祉等が切れ目なく連携することが求められます。

当院は、これまでの実績を十分に生かし、地域住民の様々なニーズに応えるため、行政、地域の医療機関、介護支援事業所などと連携を取りながら医療・介護の向上を図ってまいります。

今年度は、二本松市の委託を受け、新たに「産後ケア事業」を10月に開始し、市外の分娩施設で出産の産婦、乳児に対し当院助産師による専門的な支援を開始いたします。

また、二本松市が直括運営している「地域包括支援センター」について、当院が受託し、平成29年4月からの業務開始に向けて、二本松市と協議を行っているところでございます。

本日は、平成27年度の運営実績と、平成28年度5月までの状況について、概要をご説明、地域連携・救急車受け入れ・訪問看護等の状況についてご説明したいと考えております。

より良い病院づくりを目指していくために、様々なご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3、委員の紹介

#### 4. 議事（土川安達医師会会長進行）

大類事務長より二本松病院地域協議会資料に添って説明

##### 1) 二本松病院の運営状況について

（平成27年12月までの収支状況、平成27年12月までの患者数、診療額等）

～質疑応答～

：安達医師会土川会長

入院患者の減少の理由はどういったことが考えられますか。

：六角院長

常勤医師の減少により26年度は6名いましたが27年度からは外科医医師1名医大に戻りましたので5名となり、高度な医療を提供することや救急の受け入れにも限界があります。常勤医師確保については、医大へ出向き要請していますが、厳しい状況が続いています。

**: 安達医師会土川会長**

給与支出が大きいのは職員の年齢もありますか。

**: 大類事務長**

給与のベースアップもありますが、常勤医師減少によりどうしても非常勤医師に依頼しなければなりません。外来を充実させる為には、県内や県外の先生を招聘するのに、ある程度単価を上げて多くの先生に診療援助頂く為、給与費も上昇しています。

**: 土川会長**

今年度に入り 4 月、5 月と収支は厳しい状況ということですが、遠藤先生何かございますか。

**: 遠藤所長**

先ほど院長先生から産後ケアについてお話がありましたが、具体的にどのような事業なのでしょう。

**: 六角院長**

核家族が進んでいる中、市外の分娩施設で出産した産婦や一人で育児をしている人に対して当院の助産師が専門的な支援を行うものです。病棟にある部屋を改装する方向で現在進めております。

**: 遠藤所長**

病院さんは地域に十分ご活躍をしていますが、魅力のある病院作りとして、訪問看護、地域連携室など J C H O 二本松病院に来ていただけるように、その一つに産後ケアがあるのだと思います。今後いい方向にいくといいと思います。

**: 六角院長**

内科医師 1 名から 2 名増えれば今まで以上に地域に貢献できると思います。

**: 土川会長**

県内の病院も医師不足です。各病院も確保するのに苦労されています。この問題はなかなかすぐに答えが出ない問題です。

**: 土川会長**

: 次に平成 27 年度 地域連携の状況について

**: 大類事務長**

: 資料に添って説明

**: 土川会長**

平成 27 年度は 26 年度に比べ件数は増加傾向です。またこの春キビタン健康ネットが始まります。二本松病院さんは情報提供が出来る病院として参加していますので、今後も少しずつ件数が増えていくのかと思います。

**: 遠藤所長**

JCHO の各病院さんでは紹介、逆紹介件数の数字に関して努力義務はあるのでしょうか。

**: 六角院長**

数字目標はないですが、当院では基本的には紹介頂いた患者さんは元の病院へ戻すようにしています。

**: 土川会長**

紹介・逆紹介がうまく機能すると件数は益々あがるようです。患者さんの希望もあると思いますが、二本松病院さんはうまく動いていると思います。

**: 土川会長**

平成 27 年度 救急車受け入れ状況について

**: 大類事務長**

資料を基に説明

**: 土川会長**

一人一人の先生方のご負担が増す中で、救急患者も受け入れ、受け入れ数増加の数字を出して頂いてありがとうございます。

お体は大丈夫でしょうか。

また今年度も施設がん検診を実施します。胃カメラの件数は今まで以上に件数が上がると思います。

**: 二本松市市民部 三浦一弘部長**

施設がん検診の胃カメラに関しては市としても推奨していきますので今後ともよろし

くお願い致します。

**: 安達地方広域行政組合本部菊地警防課長**

2月の会議でもお話ししましたが、1月から12月までの1年間を比較しますと平成27年は平成26年に比べて2%の増加となっております。また昨年の事故検証は28件お世話になりました。尚、今年も救急救命士の研修受け入れをして頂きまして、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

**: 土川会長**

平成27年度 訪問看護ステーション／訪問リハビリテーションの状況について

**: 大類事務長**

資料を基に説明

**: 土川会長**

訪問リハビリをしたことによって、プラスに伸びたということですね。  
この分野は超高齢化社会で需要が見込まれているところだと思います。

**: 六角院長**

JCHO病院は急性期医療と並行して訪問看護、在宅支援看護などに力を入れていきたいと考えています。当然当院もどんどん在宅も進めていかなければなりません。

**: 土川会長**

この地域での在宅は無理なのかなと思っていました。今後は両方進んでいかなければならない事業ですので、よろしくお願い致します。

**議事終了**

土川先生ありがとうございました。

**・その他**

**: 大類事務長より**

産後ケア及び地域包括支援センターについて説明。

**: 三浦部長**

産後ケアは二本松市の子育て支援の一環で、子育ての支援をしてくれる人が近くにいな

いなどの不安を解消する為に、4ヵ月までの新生児及び産婦さんを、助産師さんが支援を行うものです。数年後にはショートステイも考えています。それを見据えての事業です。

**：二本松市福祉部佐藤部長**

地域包括支援センターについてですが、地域の実情にあった包括支援が必要です。二本松第一中学校さんの学区をエリアとしています。主な支援が買い物、相談業務などの高齢者の介護機能全般または予防介護など、包括ケアの要の機能となってきます。

## 5、意見交換

**：大類事務長**

出席頂いています委員の皆様よりご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願い致します。

**：遠藤所長**

産科医師の要望が各方面から来ております。医学生に二本松の魅力をアピールして頂き、生きがいのある二本松をなんらかの形で情報を提供していくような努力をしてほしいと考えます。

**：土川会長**

医師会も若い先生が戻ってこないと厳しい状況です。この病院で働く魅力を学生に医師会活動を通して知って頂くことも、うまく機能する一つなのかもしれません。医師確保が一番のスタートですね。

**：二本松薬剤師会藤田会長**

常勤医師確保が一番ですが、外来診療科の情報がやはり市民の方達は分からないと思います。今ある診療科を伸ばすには、PRが必要です。高齢者の方にも情報が分かるように、新聞、ちらしなど情報の提供をお願いしたいです。

**：二本松市岳下区長会副会長 吉野正昭**

産婦人科医師の確保については長期的に頑張ってください。

**：三浦部長**

先ほど藤田先生からお話がありました、診療科の標榜について市の広報に機関病院の

診療科を載せることなど、何かお手伝いできることはないか市も考えたいと思います。

**: 佐藤部長**

市の老年人口割合が4月で30%超え、高齢化対策健康寿命を伸ばしていきたいと思  
います。

包括支援センターとか難しい問題も多岐ありますから今後ご協力お願い致します。

**: 菊地警防課長**

今後出来るだけ救急の受け入れをお願いします。

**: 二本松市社会福祉協議会 安齋 英雄副会長**

産婦人科医師なんとか見つかるよう願っています。

今後も余裕のある病院経営をして頂きたい。

## 6、閉会のあいさつ

**柳沼副院長より**

本日はお忙しい中、足を運んで頂き、貴重なご意見を伺うことが出来ました。

JCHOになって、何とか黒字経営を出しておりますが、今後はかなり厳しい状況が予  
想されます。医師不足に加え、薬剤師も不足しております。このような状況の中で、  
地域の先生方と益々連携を密に取り安定した経営を目指していきたいと思  
います。

今後とも皆様からのご支援ご鞭撻よろしくお願い致します。

本日は誠にありがとうございました。